

日本音楽教育メディア学会
(JAPANESE MEDIA SOCIETY FOR MUSICAL EDUCATION)

JMSME News Letter

2023.1 vol.16

発行：令和5年1月15日

日本音楽教育メディア学会事務局

〒125-0062 葛飾区青戸 5-5-16

メールアドレス info@jmsme.org

ホームページ

<https://jmsme.org/>



ご挨拶

会長 田中功一（放送大学客員研究員）

学会の皆様、あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。1月10日に論文、研究報告、口頭発表予稿を提出いただいた先生方、お疲れ様でした。この後も期末、学年末のお忙しい時期だと思います。演奏や作品制作に関わっておられる先生方も多いかと思えます。本当に時間が足りない！と感じられる時期ですね。

さて、本学会の特長の一つに掲げています J-STAGE 公開論文ですが、前回公開されたのが 2021 年 3 月 3 日の先行公開でありまして、その後の掲載はございません。寂しい状況が続いていますが、コロナ禍による授業運営のご負担など、論文執筆にとって厳しい環境だと想像いたします。また、専門を音楽実技としている先生方も多いかと思えます。演奏活動、作品制作、その他の音楽活動に多くの時間をかけて、同時に原稿を書くのはたいへんなパワーが必要かと思えます。論文執筆にあたり、計画的に進められるように期待しております。学会では年間二回の研究会や情報交換会を開催しています。特に新入会員の先生にはそこから参考になることがあるかもしれません。

そこで、今日は新入会員の先生方へ、今後の論文執筆に向けて少しアドバイスさせていただきたいと思えます。と言いましても、私もご指導できるような実力もありませんが、立場上ご容赦ください。もしかしたら参考になるかもしれません。私も含めて、実技系を専門とする場合、自己の練習時間やレッスン時間の制約から執筆時間が分断されることにより、文脈に問題が起こるケースが考えられます。例えば、電車の中とか、授業やレッスンの合間に執筆するケースで、私も通勤時間が長かった時はよくありました。特に全体の構成がしっかりしていない場合、論文全体がバラバラになってしまいます。分断された時間管理の状況下で、論文の構成をしっかりするためにはどうしたらよいか。一つの例ですが、文献管理ソフト(無料版有)を活用することをお勧めします。ノートパソコンにインストールしてサーベイ論文を読んで参考箇所をマークする。これは電車の中でもできます。一日1~2本は読めると思えます。これを続けると自身のテーマ性が次第に見えてくる気がします。これは参考にならないなあ、ちょっと違うなということも見逃さないことは意外に重要になるかもしれません。論文は研究者たちが積み上げて受け継いできた研究の文脈を共有するものですので、その中に自身を置くことにより、そこから視界が開けるといいですね。次号の先生方の投稿をお待ちしております。

本学会の J-STAGE 公開論文のその後のアクセス状況をお知らせします。アクセス状況は毎月学会事務局に通知されます。昨年10月のアクセス状況は、全体で書誌事項が209件、全文PDFが117件、11月のアクセス状況は、全体で書誌事項が148件、全文PDFが169件でした。また、先生方の論文の引用もカウントされ続けています。J-STAGEは論文の発信力としてパワフルですが、論文の質が学会の評価に直結します。J-STAGE 公開論文は外部査読となります。

先生方には、ホームページの発信、または J-STAGE 公開をご活用いただきたいと思います。また、このような発信に興味を持っていただける先生方がいらっしゃいましたら是非お誘い下さい。

日本音楽教育メディア学会 第16回 研究会のご案内

日時：2023年2月23日（木・祝）

10：30～12：00 研修会

13：10～16：30 研究会

場所：葛飾シンフォニーヒルズ 別館 2階 ビジュアルルーム

会場とオンライン（Zoom）でのハイブリッド開催となります。

参加費：会員無料 非会員 1,000円（事務局に参加お申し込みください）

事務局：info@jmsme.org

❄️研修会（招待講演：10：30～12：00）

米田直之先生（音楽家・くるくるレーベル主宰）、カエル大先生（VTuber・ゲスト出演）

講演タイトル：「カエル大先生の音楽&Scratch 寺子屋 特別編

～オンラインでキッズ達と楽しく遊んでみた～」

★プロフィール

米田直之（ヨネダナオユキ）先生

高校在学中よりジャズ理論を学び、大学卒業後、ロンドンへ音楽留学。サウンドプロデューサー/キーボーディストとして幅広い音楽性を持ち、多岐に渡るアーティストと一緒に楽曲やステージを作り上げている。映像音楽制作においては、ジャズ/ラテン/ミニマルをベーシックとしたスタイリッシュな音像が特徴的。多種多様多彩なプレイヤー陣との交流も深く、ジャンルレスな制作スタイルで活動。

カエル大先生 / Prof. KAERU

ヴァーチャルキャラクター。音楽とプログラミングをやっている。自身のScratch作品から生まれた楽曲をまとめたシングルEP「Cursor Panic」を各種サブスクでデジタルリリース。キッズコードクラブの放課後プログラミングクラブに音楽&アート企画で参加。Twitter、YouTubeで情報発信を続けている。

👤研究会プログラム（発表20分、質疑応答10分 入れ替え含む）

13：10 「デジタルとアナログの融合を目的としたリズムオーディオサンプル創作

—ICTを活用した音楽づくりの取り組み— 箱崎理沙（武蔵高等学校・中学校）

13：40 「保育者を目指す学生が考える表現に必要なスキルについて—保育表現技術演習での

音楽劇鑑賞から— 三上伸和（声楽家）、林麻由美（東京福祉大学短期大学部）

14：10 「遠州灘の波小僧伝承調査から—風景のアーカイブズとしての校歌— 兼古勝史（放送大学）

14：50 「小学唱歌に関する研究—唐沢富太郎の唱歌歌詞分析について— 飯泉祐美子（帝京科学大学）

15：20 「教員・保育士採用試験音楽実技内容とその対策—近年の傾向とICTの活用に向けて—

小林田鶴子（神戸女子大学）

16：00～情報交換会

連載「子どものうた」 「こどものうた」とは？

「子守歌」 (2018. 1)
「子守歌」－江戸の子守歌－ (2018. 7)
「子守歌」－五木の子守唄－ (2019. 1)
「子守歌」－中国地方の子守唄－ (2019. 7)
「子守歌」－島原の子守唄－ (2020. 1)
「子守歌」－竹田の子守唄－ (2020. 7)
－ふたつある校歌－ (2021. 1)
「学校唱歌」と「学校音楽」今と昔 (2021. 7)
「子どもの歌こそ豊かな情操をはぐくむもの」 (2022. 1)
児童文化財としての明治期の唱歌 (2022. 7)

これまで、2018年1月より、「こどものうた」(2018.1～2020.1)「子どものうた」(2020.7～)として書き記し、本稿で11稿目となる。この間に、上記に挙げたような「こどものうた」について私の研究の一端からいろいろと述べてきた。

ここで改めて「こどものうた(子どものうた)」について考える。

「こどものうた」は「子どもに歌わせたい歌」と「子どもに聴かせたい歌」と大きく二分される。「子どもに歌わせたい歌」とは、子どもたち自身が「心地よく歌うことができる」「仲間と楽しく歌うことができる」さらに「歌詞の内容などに興味を持てる」「子どもの声域に相応しい」「メロディーラインのわかりやすいもの」このような歌と言える。

一方、「子どもに聴かせたい歌」とは、子ども達自身が「聴いていて心地よい」「楽しく何度も聴きたくなる」「子ども達の心をつかむ曲調」、中には「複雑なメロディーラインや複雑なハーモニー」のものもある。「歌詞の内容の理解が難しい」こともある。この場合「大人が好む曲調」であることが多く、子ども達の発達段階を配慮しない、歌うには困難なことが多い。

さて、先日、実習の巡回で訪問した園での出来事である。「にじのむこうに」(坂田おさむ作詞/作曲)を子ども達が大きな声で歌っていた。確かに「耳に残る曲調」であり、この歌のメロディーラインや歌詞の内容は、大変素敵な歌であると思う。当然、子どもからも大人からも好まれる1曲である。きっと保育者が好んで選曲をしたと思われる。しかし、是非、楽譜を見てほしい！子どもが歌うには大変難ありの1曲である。私たち保育者、教員養成に携わる教員は、この様な現場の現実を察知し、「子ども達に歌わせたい歌」と「子ども達に聴かせたい歌」を選別し見極められる力を学生に施すように努めなければならない。

この出来事は、音楽教育に携わるものとして、その責務を改めて実感した出来事であった。

帝京科学大学教育人間科学部教授 飯泉祐美子

～COLUMN～ 海と音楽

年の暮れに、海の近くの町に泊りで出かけることとなった。久しぶりの旅に、心ときめかせながら砂浜をぶらりと歩いていると、学生時代にレッスンを受けたウゴルスキーの言葉をふと思い出した。スクリャービンの2番のピアノソナタのレッスンだった。表現に悩んでいると、「地球の10分の7は海なんだ。」と言。その途端に、あの細かい音符たちの動きが水に変わった。二度と同じ波は来ない。速さも深さも、その輝きでさえ同じことは一度としてない。

クラシック音楽で海と言えば、ドビュッシーの交響詩《海》を、まず一番に思い起こすだろう。葛飾北斎の『富嶽三十六景』の版画が初版の楽譜の表紙に用いられていることでも有名だ。第1楽章「海上の夜明けから真昼まで」、第2楽章「波の戯れ」、第3楽章「風と海との対話」という副題もつけられている。ドビュッシーは他にも「アナカプリの丘」や「喜びの島」等、海に関係する楽曲を多く残している。

そういえば、人生に悩んでいるときに、「この海の水はハンブルクまでも続いている。」と言った人もいた。その一言で多くのことが解決した。ヘミングウェイの『老人と海』でも、サンチャゴとマノーリンの言葉の中に多くの教訓を残している。海だけに留まることではないが、それは私たちに多くのインスピレーションを与えてくれる。テレビやスマホで簡単に世界中の海が見られ、その波の音を聞くことができる現代。ある時一度それらをリセットして、憧憬や懐古の念を抱きながら本物の音を聴き、その中に浸かってみるのはどうだろうか。時間に追われ人生を見失う前に。それを今年の目標にしたいと思う。

武蔵野音楽大学 森永美穂子

◀会員メッセージ▶

箱崎理沙（武蔵高等学校・中学校）

この度、会員として入会いたしました箱崎理沙と申します。よろしくお願いたします。私は水戸第三高等学校音楽科、洗足学園音楽大学でクラシックサクソフォンを学び、卒業後は演奏活動の傍ら小学校の特別支援学級、女子高、中高一貫校（共学）で講師を10年ほど務めておりました。現在は武蔵高等学校中学校（男子校）に芸術科主任として所属しております。武蔵は芸術教育を大切にしている学校で、私自身も母が書道家、画家だったことから芸術分野全般に興味があります。他、読書好きが高じて司書教諭の資格を取得したりなど「メディア」に関することにも興味があります。ホームページで本学会を知った時は心躍りました。本学会の活動が今の私のアンテナにぴったり合致していたからです。私は教師の仕事クリエイターだと思って楽しんでおりますが音楽教育を学問として学んだことがないため、いつも試行錯誤、独学、自己流で授業を行っております。よって不安になることも多いです。本学会に参加し自分に足りないものを補えたらと思っております。

最後になりますが、私はこれまで学会に所属したことがなく、論文？研究会？というものがよく分かっておりません。間違い、失礼等ございましたらすみません。皆様との交流もとても楽しみにしております。今後ともよろしくお願いたします。

（最近の関心ごと…日本の文化が好きでお箏を嗜む。ヴィンテージ楽器のリペアマンのもとで修業中。好きな芸術家はジョン・ケージ。福島県出身で「ままだおる」を愛する。）

◀会員メッセージ▶

田中知子（一般社団法人東京室内歌劇場）

皆様はじめまして。田中知子と申します。林麻由美先生のご紹介で入会致しました。一般社団法人東京室内歌劇場に所属しており、主に伴奏者として活動しております。先日、出身大学の近くにお住まいの声楽の先生のお宅に伺いました。大学周辺はすっかり変わって、道は広くなり新しい家が建ち並び、そもそも大学も建て替えられたので思い出も一緒にまるどこかへ消えてしまったようで、長い時の流れを実感しました。今回、お仲間に加えて頂いたことで会員の皆様から刺激を受け、これからの人生の有意義な課題を見つけることができそうな予感がしています。

ライフワークとしてヨーロッパの言語を学んでおり、これまでにフランス語とドイツ語を、現在はイタリア語教室に通っています。週1回のレッスンでは、とてつもなく複雑で豊かなその文化に目を白黒させています。

音楽活動では2013年より「クラシック歌手によるシャンソンショウ〜シャンソンフランセーズ」という企画（東京室内歌劇場主催）を10回以上企画、開催しました。この公演は今年から自主企画で開催予定です（2023年9月29・30日内幸町ホールにて）。また定期的に開催しているソロリサイタルでは室内楽に取り組み始めました。今年（5月28日王子ホール）はブームスのピアノクインテットに挑戦致します。どうぞ宜しくお願い致します。

◀会員メッセージ▶ ～青森からこんにちは～

三上伸和（声楽家・オペラ歌手）

皆さん、青森=どんなイメージですか？ねぶた祭り、恐山、りんご、芸能人では淡谷のり子、吉幾三、最近では津軽弁トークで人気のタレント王林ちゃんでしょうか。本州最北の地「青森」は、三海と白神山地や八甲田山など山々に囲まれた豊かな自然と美食の地であり、春夏秋冬を感じる地でもあります。特に冬の雪は厳しく、青森市は世界一の降雪都市です。私は、ふるさと青森に移り住み、ブライダルやイベント、音楽鑑賞教室など地域に根差した音楽活動を夫婦で展開しているオペラ歌手の三上伸和と申します。なぜ青森で?!と思われるですね。地方に住むことで生の音楽に触れる機会をたくさん作り、音楽を知らない、聴いたことがない人にも楽しく、分かりやすく音楽の魅力を伝えることができると考え、地域の音楽文化発展につながることを願って活動しています。

これまで私が青森において企画、演奏してきた経歴を一部紹介します。未就学児の子どもと一緒に音楽を聴きたい親子に身近な公民館でコンサート。シャッター街と化した中心市街地の活性化事業として、閉館した映画館でのオペラ公演。プロと地元小中学生と一緒にステージを作り、子どもたちの心を育てる青い森音楽祭。ラジオ番組を通し、県内のたくさんの方にオペラやクラシックの魅力を広める…。また、青森の民話を題材にしたオペラ公演や青森の素晴らしさを歌にした創作曲のCD作成など、青森から発信する音楽を創り上げています。

地方における音楽活動を研究の場で取り上げ、多くの先生方にご意見を頂きながら今後の活動と地方の音楽文化発展に寄与してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願申し上げます。

『千住 人情芸術祭 1DAYパフォーマンス表現街』に出演しました♪

向寒の11月初頭、本学会の会員3名で結成した「鍵盤Sanju（三重）奏団」で、30分のストリートパフォーマンスを行いました。

職場の異なる三人でも、共通の思い入れのある北千住という街！それぞれの思いを馳せてのパフォーマンスでした。（元この商店街の住人・・・小林、職場のある街・・・飯泉(祐)、通勤の乗換駅&呑みの街・・・兼古）



通行される街のみなさまを巻き込んでの楽しいひと時でした♪

～曲目～

1. トルコマーチ（モーツァルト）
2. ピンクパンサー（街のみなさまの飛び入り参加ありました）
3. 魔法の伴奏（街の親子の飛び入り参加ありました）
4. ピアノフェイズ
5. ムーンリバー



（飯泉祐美子、小林田鶴子、兼古勝史）

コンサート 情報

箱崎理沙先生
がご出演され
ます。

曲目：シャル
ル・ケックラ
ン作曲、ジーン
・ハーロウ
の墓碑銘 他

ASKA HINO presents ジョイントコンサート
MUSIC BASKET Vol.5
～飯野明日香がつなぐ音楽の輪～

チロコリー・ド・ヴェルヴェー / 全席自由
(演奏) 飯野明日香

フレデリック・ショパン / マルチ 第4番 Op.34.3 ～哀楽
フレデリック・ショパン / 夜曲 Op.9.3 第2番
(演奏) 飯野明日香

フランシス・ブーラン / 30秒のワルツ
カローラ・ブロンデル / 第1番 第2番 第3番 第4番
(演奏) 飯野明日香

メンデルソーン / スペイン舞曲 Op.27 第3番 第4番 (ピアノ・ソロ)
メンデルソーン / ショパン風 / ショパン風 / ショパン風
ジュゼッペ・ヴェルディ / 20世紀の音楽家たち / ショパン風 / ショパン風
フランシス・ブーラン / 第4番 / 第4番 / 第4番 / 第4番
(演奏) 飯野明日香

シロコリー・ド・ヴェルヴェー / ジョイントコンサート 第5回 第5回
(演奏) 飯野明日香

バグネル・ド・ヴェルヴェー / フォート・ワグネル
(演奏) 飯野明日香

ジュゼッペ・ヴェルディ / 20世紀の音楽家たち
(演奏) 飯野明日香

ジャン・バティスト・モザルティ / 第1番 第2番 第3番
(演奏) 飯野明日香

2023年 3月26日(日)開演14:00開場13:30

全席自由 学生 ¥1,000 一般 ¥2,000

ASKA HINO 〒187-0043 東京都東区上野1-25-15 TEL 042-691-4796 (東京) Mail music.basket39@gmail.com

会費納入のお願い

今年度（2022年8月1日～2023年7月31日）の年会費の納入をお願いいたします。

《振込先》 ゆうちょ銀行 10510-91267401
他銀行よりお振込みいただく場合：
店名 058 店番 058 (普) 912674
ニホンオンガクキョウイクメディアガッカイ

※入会・退会に際しまして、又、会費についてご質問等ございましたら事務局までご相談ください。

事務局だより 今年は、パッヘルベル（370年）、ラモーン（340年）、ボッケリーニ（280年）、ワグナー、ヴェルディ（210年）、ボロディン・ブラームス（190年）、ラフマニノフ（150年）と生誕メモリアル・イヤーを迎える大音楽家が綺羅星のように重なる年です。そして本学会の前身である日本コンピュータ音楽教育ソサエティが1993年に誕生してから30年となります。多彩な新会員もお迎えし、会員相互の情報交流も一層深めて行けたらと思います。「会員掲示板」では会員の皆様の活動状況のお知らせや報告をお伝えしています。皆様ぜひ、演奏・講演・ワークショップなどの情報をお寄せください（※情報の掲載の可否は事務局の判断になります。また掲載にあたり文章をリライトさせていただく場合があります）。（兼古）